

支えるつながり

連合会指定研究発表会

平成28年度から2年間にわたり大分県PTA連合会の指定を受け、PTA活動の実践研究に取り組んできた指定校3校。その研究発表会が各々の日程で行われた。子ども健やかな成長を図るため、地域の特色を生かしながら家庭・学校・地域がつながり活動する様子がそれぞれの研究主題で報告された。

継続的研究の成果が披露された各会場には、県内より多くのPTA会員が参加した。

大分県PTA連合会指定研究は、昭和24年に始まった県教委指定の事業を昭和31年に引き継いだ。他県にはない県P連の特色ある事業。大分市より1単位、県南・県北の各都市より2単位のPTAが研究指定を受け、2年間の研究成果を公開発表し、PTAの振興を図っている。



災害時に考えられる困りを視点をかえて出し合う
東飯田小学校「フアミリー学級」



自分の気持ちを言葉で伝えよう

九重町立東飯田小学校体育室
会(児童数126名、会員数89) 交えたグループで交流。
3年生は、目が見えないう障がい者の方を招き、自分たちができることを確認。6年生は、時間の使い方を自分自身で直した。人と関わり、自分以外のために時間をわり自分以外のために時間を使う大切さを学ぶ内容。

4年生は、自分が言われたり、されてイヤなことをフアミリーシートに記入することで、友だちの感じ方の違いを認識。今後の学級運営に活かす。

5年生は、災害時に考えられる問題「とは何か、仲間を地域の方や保護者、教職員が励め毎年行われている。低学年一命の大切さを知り、自分も友だちも大切にできる気持ちを持つ。

中学年一自分や友だちのよさに気づき、共に活動しようという気持ちを持つ。

442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

身近なところから「人権を学ぶ」

九重町立東飯田小学校体育室
交えたグループで交流。
3年生は、目が見えないう障がい者の方を招き、自分たちができることを確認。6年生は、時間の使い方を自分自身で直した。人と関わり、自分以外のために時間をわり自分以外のために時間を使う大切さを学ぶ内容。

4年生は、自分が言われたり、されてイヤなことをフアミリーシートに記入することで、友だちの感じ方の違いを認識。今後の学級運営に活かす。

5年生は、災害時に考えられる問題「とは何か、仲間を地域の方や保護者、教職員が励め毎年行われている。低学年一命の大切さを知り、自分も友だちも大切にできる気持ちを持つ。

中学年一自分や友だちのよさに気づき、共に活動しようという気持ちを持つ。

442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

意識の芽生えを促し成長させる地域力

九重町立東飯田小学校PTA 11月18日



保護者のヒントをきっかけに

大分市立大分西中学校PTA
A(生徒数434名、会員数442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

参加した生徒は「地域の方を知る良い機会となった」学年を超えて交流ができて良かった。地域の人は「若い方と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。

すべては「親としての願い」

大分市立大分西中学校PTA 11月23日

午前中の公開活動について説明が行われた。

「いざと言うときに保護者がリーダーとなって生徒に指示を出せるようにすることを目標にしていた。研究内容の方向性を検討する際、現代社会において早急な対策や解決策を必要とする地域課題は何か。それは、頻繁に起きている自然災害への備えを行っていくことではないかと考え、研究動方針に学校及び家庭、社会における生徒の健全な育成を進めることとした。まず、大分県と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。

「防災」をキーワードに地域づくり

大分市立大分西中学校PTA 11月23日



地域の方と問題に取り組む

大分市立大分西中学校PTA
A(生徒数434名、会員数442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

参加した生徒は「地域の方を知る良い機会となった」学年を超えて交流ができて良かった。地域の人は「若い方と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。

PTAが「主体」となると

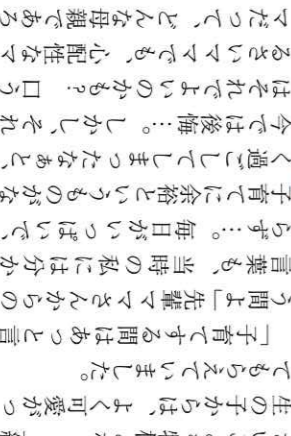
大分市立大分西中学校PTA
A(生徒数434名、会員数442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

参加した生徒は「地域の方を知る良い機会となった」学年を超えて交流ができて良かった。地域の人は「若い方と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。



大分市立大分西中学校PTA
A(生徒数434名、会員数442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

参加した生徒は「地域の方を知る良い機会となった」学年を超えて交流ができて良かった。地域の人は「若い方と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。



発表に聞き入る参加者

大分市立大分西中学校PTA
A(生徒数434名、会員数442名)は「ぬくもりとつながりの中で生徒を育て、PTA活動」学校・地域・保護者心が響き合う環境づくりをめざして、研究主題に公開発表を行った。

参加した生徒は「地域の方を知る良い機会となった」学年を超えて交流ができて良かった。地域の人は「若い方と交流ができて今日はとても楽しかった。若い力を發揮して欲しい」と感想を述べた。保護者は「生徒たちや地域の動きが行われた。活動はアイスブレイクの手法を用いて、コミュニケーションしやすい雰囲気をつくることから始めた。保護者も進行役となり、11の地区の縦割り班に分かれた生徒と教師、地域の方が一緒に、問題に取り組んだ。

平川 義穂

三行詩 コンクール

— 大分県最優秀作品 —

大分県PTA連合会は、平成29年度「三行詩コンクール」の県内審査を行い、応募総数339点の中から、部門ごとの大分県最優秀・優秀作品を決定した。足田啓二県P連会長が、最優秀賞受賞者の学校で表彰を行い祝福した。

豊かな成長

平成28・29年度 大分県PTA

清々しい歌声を披露する生徒たち



大分西中学校「災害に備えるための研究」



由布川小学校「夢授業」

紡いでひろげる
伝統文化「しめ縄」作り

【小学生の部】
国東市立富来小学校 6年 小野落 涼風




我が家での
百人一首は夕食後
読み手は
ホロ酔いお父さん
早く読んでよ次の句を

【中学生の部】
佐伯市立画川中学校 2年 後藤 歩



僕の後ろ姿を見て
時々 父と間違える母
「何回目？」とつっこむ僕
大きく変わったなああと
嬉しそうな母

【一般の部】
豊後高田市立河内中学校PTA 木幡 佐智子



洗濯物
たたみながらいつも思う
家族が増えるとともに
だけど 減っていくのね
子ども達の巣立ちとともに

三行詩コンクールは「たのしい子育て全国キャンペーン」を推進する文部科学省が、日本PTAと共催し募集、表彰を行っている。日頃から親子で話し合う大切さを社会全体に呼びかけることを目的としている。

**第41回大分県PTA
広報紙コンクール**
1年間の成果をお待ちしています

締切 平成30年3月23日(金)
審査日 平成30年4月5日(木)
表彰式 平成30年4月17日(火)

※応募対象※
県下の小・中・特別支援学校PTAで3回以上定期発行した広報紙。(号外を除く)
(平成29年4月から平成30年3月発行分)審査部門は小学校と中学校の2部門とする。

「第41回大分県PTA広報紙コンクール」出品についてのお問い合わせは各都市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付いたします。

学校は、創立155年を迎えた中規模校。児童数が53人まで減少した時期もあったが、校区内の大学開校に合わせた地域開発で急増した。今なお料理「やせうま」について地域の新興住宅が顕在し人口が増加する地域。学校運営審議会と連携し、地域と協働した活動を取り組んでいる。

午前中の公開活動では「親が子どもに今、伝えたい事」をテーマに、学年の取組テーマと合わせて「学校で学んだことが実社会でどのように役立つのか。それを実感をもって学ばせたい」と、P(保

4年生は、環境学習の一環で保護者を講師に「エコモップ」を作製。児童は「割り箸とアクリル毛糸で簡単に出来る」を工夫して遊びながら、の「わく」つながるPTIC大作戦」を研究主題に公開発表を行った。

由布市立由布川小学校PT(護者)T(学校)C(地域)がA(児童数406名、会員数331名)は「みんなの」できる331名を紡いでひろげよう協育開催。事前に公園で拾い集めるを紡いでひろげよう協育開催。事前に公園で拾い集める

地域の人材資源を活かす夢授業
由布市立由布川小学校PTA 11月25日

4年生は、環境学習の一環で保護者を講師に「エコモップ」を作製。児童は「割り箸とアクリル毛糸で簡単に出来る」を工夫して遊びながら、の「わく」つながるPTIC大作戦」を研究主題に公開発表を行った。

由布市立由布川小学校PT(護者)T(学校)C(地域)がA(児童数406名、会員数331名)は「みんなの」できる331名を紡いでひろげよう協育開催。事前に公園で拾い集めるを紡いでひろげよう協育開催。事前に公園で拾い集める

職業は、自分に向けてない導要領のポイントに社会に開かれた教育課程があげられる。てみようとという気持ちが大活用と連携で子どもたちが社会に寄せられた。

午後からの全体発表では、最初専門部の活動を報告。続いて、平成25年度から始



伝わる学び

6年生は、キャリア教育のあった。これらがPTCの一体化を達成する本番と考えられている」と発表した。

秋吉治男教育庁社会教育課社会教育主事は「新学習指導要領のポイントに社会に開かれた教育課程があげられる。からやめようじやなく、やってみようとという気持ちが大活用と連携で子どもたちが社会に寄せられた。

「仕事について知り、質問すること興味を持てた」職業は、自分に向けてない導要領のポイントに社会に開かれた教育課程があげられる。からやめようじやなく、やってみようとという気持ちが大活用と連携で子どもたちが社会に寄せられた。

「仕事について知り、質問すること興味を持てた」職業は、自分に向けてない導要領のポイントに社会に開かれた教育課程があげられる。からやめようじやなく、やってみようとという気持ちが大活用と連携で子どもたちが社会に寄せられた。

「今日、学校で何をしましたか?」「なんもない」
「学校に友だちはいますか?」「うん」

お家で、このような会話をしたことはないですか? 詳しい答えをgetできるか。

親は誰でも、我が子が学校でどうしているのか知りたい。賢問は「はい、いいえで答えられないものがない。例えは：「今日、一番面白かったことは何ですか?」「友だちとどて問題があれば先生に電話するかな話をした?」「先生の口をせは何かですか?」「何が難しかった?」

子どもはよく、「面白くない、つまらない」と思っていることを「難しい」と言うのか。勉強は分かれますか。家で、勉強は分かれますか。1テーマが分かれます。

質問をしてもらえは短く詳細絶対に子どもコメントに怒らないこと。「それをしない、いや、いっつも忙しいので私達、これをして」のコメントは優しく、時にはあどで。

**子育てに役立つ情報を発信
みんなが子育て**

横松レイチエル

中津市内で夫と3人の娘と暮らしています

「オンライン」
ニユージャーランド出身
英語教師
新刊広告をみて来日
～現在に至る

仙台大会に参加して

第65回日本PTA全国研究大会 第49回日本PTA東北ブロック研究大会

8月に宮城県で開催された第65回日本PTA全国研究会の討議テーマは「はじめ、自己肯定感を育成する」。⑨社会的な結びつきと居場所づくり(ニ子と東北ブロック研究大会仙台大会に、大分県PTA連合会理事名で参加しました。子どもはどちらにも9割に達している。今の子ども社会において「はじめ」が一般化していることから大人が目を背けず、子どもたちに「元気を、笑顔」という想いを胸に抱いての参加です。

また10月21日、22日に大分県で開催された第62回日本PTA九州ブロック研究会をおいた大会を成功させるための大会準備の一環として、色々な方面から勉強させていただきました。勉強させてください。そのために①「減点社会」型から「加点社会」型へ発想の転換(子どもを褒めて子どもを褒める)が、私たち大人をモチベートに寸劇を披露。家庭と学校が協力して、いじめた貴重な機会となりました。この研究大会を通じて、子どもたちのためにPTAができることは何かを改めて考えると共に、親としてわが子への想いも再確認できたいと思います。本当にありがとうございました。



大分県PTA連合会 理事 池部英明



相互理解でつながる思い

平成29年度 教育問題懇談会

平成30年1月31日(水)、県教委と県P連との「教育問題懇談会」を、県庁別館で開催した。懇談会には、県教委から工藤利明教育長他教育次長・関係各課・室から計22名、県P連から足田啓一会長他副会長・理事ら計23名が出席した。子どもたちのより良い教育環境を、という思いのもと熱心な意見交換が行われた。

各郡市P連・育友会から出された教育課題をもとに意見交換を行い、お互いの理解を深め合った。

(1) 学校の教育環境整備について

①教職員の定数に係る法改正の内容及び県の今後の対応等について

学校数・児童生徒数に応じて配分される「基礎定数」と教育上の特別な配慮などの目的で配分される「加配定数」がある。そして、法改正で、平成29年度から10年間で加配定数の約3割を基礎定数化する

15時間以上、5・6年生には50時間以上の外国語活動が実施される。これに伴い、指導する担任の研修や外国語専科教員の配置、現在、県下に13人いる国の研修を受けた英語教育推進リporterや大分県英語教育推進研修を修了した中核教員等を中心に外国語教育を推進していく。ことにより、大分県も教職員が主体的・計画的な採用などを行うことができている。②体力向上に向けての体育専科教員加配の現状について 県下の小学校24校を体育専科教員活用推進校として指定し、児童生徒の体力向上に向けて取り組んでおり、周辺校にも広がっている。今後は、親子でできるウォーキングなど家庭でできる体力向上の取組を推進していく。③外国語活動の大幅な導入に際しては、外国語専科教員加配に係る環境整備や教職員の研修、外国語活動の大幅な導入に際しては、児童・生徒の安全を守るために学校現場が実施している指導・研修面や保護者の協力

(2) 中小学校の管理職の危機管理について

平成30年度からの移行期間中、小学校3・4年生に年間

面について

各学校では、児童生徒等の安全確保を図るために「危機管理マニュアル」を作成・検証、見直しを行っている。保護者、地域の方には、学校が行う避難訓練や各種の防災研修会へ参加し、情報を共有し地域、保護者と協働で防災体制の構築を推進していく。

(3) 大分県PTA連合会と協議したいこと

④学校と連携・協働する地域住民として教育環境整備のためにすべきことについて 現在、県下の各学校では、自校の教育課題解決に向けた多発しており、児童生徒が加害者等になる事象が発生している。万が一に備え傷害保険や自転車保険等に加えし事故に対して備えて欲しい。

教育長に要望書提出

足田啓二県P連会長は、1月11日、工藤利明県教育長に対し、平成30年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施に向けた要望書を提出した。

会員の皆さん ありがとうございます。九州北部豪雨支援募金、昨年の九州北部豪雨被害や台風18号被害に対する県P連の義援金募集に対し多くの心温まるご支援・ご協力がありました。集まった義援金は、被害を受けた郡市P(音)連等に配分し、会員救済や教育関係等の復旧費用に活用させていただきます。また、この研究大会を通じて、子どもたちのためにPTAができることは何かを改めて考えると共に、親としてわが子への想いも再確認できたいと思います。本当にありがとうございました。

おめでとうございます 平成29年度 優良PTA 功労者表彰

文部科学大臣表彰 優良PTA功労者表彰 日本PTA会長表彰 第39回全国小中学校PTA広報紙コンクール表彰

大分県PTA連合会 学生・子ども総合保険のご案内

三井住友海上の安心 GKK

子どもだけでひとこと Sweet & bitter

ガッツンこのしずく 長寿番組の「ガッツン」の最終には、「ガッツン」を打つ場面がきもものだ。

編集後記 大分県PTA連合会事務局

本質を見極めた温かい目差しが湛んでいるようである。「当たり前の事柄」として世間に生き延びている存在を「ガッツン流」という流儀で再生させているのではないかと、改めて思うところである。本紙三面に紹介された親子の会話を讀にした三行詩コンクール「優秀作品」には温もりの結び目が透けて見え、心打ち言葉同士のひびき合いが家庭というオアシスを固めているのだから。「心の共鳴」が、「ガッツン」かもしれない。

後藤 歩さんの作品は、思春期の不安な時期をさ迷う自分を、母親が「大きくなったが繰り返されながら、納得にねえ」と、受け止めてくれる返歌の詩ではなからうか。「結び目」を解け出られた返歌は、オアシスという心の安らぎから湧き出た、一滴の「ガッツン流」という手法しずく。子育ての「ガッツン」に注目しなければならぬと、思ふ。話しの進行役とも受け取れるこの手法には、事柄のしずくだつ。ガッツン！